

2月15日

主神我が救世主イイススハリストスの迎接祭

讃詞、第一調。

恩寵を満ち被むる生神童貞女よ、慶べ、爾より義の日ハリストス我等の神、幽暗に在る者を照す主は輝き出でたればなり。義なる翁よ、爾も楽しめ、爾我が霊の救主、我等に復活を賜ふ者を抱きたればなり。



恩寵を満ち^{こうむ} 被る 生神童貞女や、よろこべよ

爾より、義の日ハリストス我等の かみ くらやみに 在る者を 照らす

主は 出でて光ればなり 義なる^{おきな} 翁 や 爾も 楽しめよ

我が^{たましい} 霊の救 主 我等に復活を賜う者を^{いだ} 抱きたればなり

小讃詞、第一調。

ハリストス神よ、爾は己の降誕にて童貞女の腹を聖にし、宜しきに合ひてシメオンの手に福を降し、今我等の為に救を備へ給へり。獨人を愛しむ主よ、我が國を戦の時に平和にし、爾の愛する國を固め給へ。



ハリストス かみ や 爾は 己の 降 誕 に て 童貞女の 腹を 聖 に し

宜しきに かないて シメオンの手に 福をく だし

今我等のために救いを そなえ たり 独り 人を愛しむ 主よ

我が國を戦の時に 平和にし 爾の愛する國を 堅めた まえ

【ポロキメン】第三調。

我が霊は主を崇め、我が神[°]は神我が救主を悦べり。句、「蓋其婢の卑しきを顧みたり」。



【使徒の誦読】エウレイ書三百十六端。

兄弟よ、小なる者が大なる者より祝福せらるゝは、一も論なきなり。且此には、十分の一を取る者は死すべき人なり、彼には、己の事を彼は生くと、證せらるゝ者なり。又斯く言ふべし、十分の一を取る所のレウィイは、自らアウラアムに由りて、十分の一を供せり、蓋メルヒセデクがアウラアムに遇ひし時、彼は尚其祖の身に在りたり。是を以て、民はレウィイ司祭職の下に律法を受けたるが故に、若し此の司祭職に由りて完全なることを得べくば、何ぞ亦メルヒセデクの班に循ひて他の司祭の興り、アアロンの班に循ひて稱へられざる者を須いん。蓋司祭職の易る時は、律法も亦易らざるを得ず。此等の言の指す所の者は、他の支派に属すればなり、即其中一人も祭壇に奉侍せざりし支派なり。蓋我等の主がイウダより出でしことは明なり、モイセイは此の支派に於て司祭職の事を一も言はざりき。其更に明なるは、蓋メルヒセデクに似たる他の司祭の興るなり、乃肉體の誠の律法に循ふに非ずして、無窮の生命の能に循へる者なり。蓋證するあり、云く、爾メルヒセデクの班に循ひて司祭と為り、世世に迄らんと。

【ア ril l i ya】、第八調、主宰よ、今爾の言に循ひて、爾の僕を釋し、安然として逝かしむ。句、是れ異邦人を照す光、及び爾の民イズライリの榮なり。



【福音經の誦読はルカ七端】

彼の時父母は嬰兒イイススを攜へてイエルサリムに上れり、之を主に奉らん為なり、主の律法に録されしが如し、曰く、凡そ初めて胎を開く男子は主に聖なりと稱へらるべしと。又、主の律法に言ふ所に依りて、雙の班鳩或は二の雛鴿を祭に獻げん為なり。視よ、*イエルサレムにシメオンと名づくる人あり、斯の人義にして敬虔なり、イズライリを慰むる者を俟ち、而して聖神彼に臨めり。彼に、聖神に由りて、主のハリストスを見ざる先には、死を見ざらんと示されたり。彼神に依りて殿に來れり、父母が嬰兒イイススを攜へて、之に律法の例を行はん為に入りし時、

彼は嬰兒を其手に取り、神を祝讃して曰へり、 主宰よ、今爾の言に循ひて、爾の僕を釋し、安然として逝かしむ。蓋我が目は爾の救を見たり、爾が萬民の前に備へし者なり、是れ異邦人を照す光、及び爾の民イズライリの榮なり。イオシフ及び嬰兒の母は彼に関して言はるゝ事を奇とせり。シメオン彼等を祝福して、其母マリヤに謂へり、視よ、此の子は置かれて、イズライリの中に衆くの者の頽れ又は興るを致し、且駁論の號と為らん、衆くの心の念の露れん為なり、爾にも劔は靈を貫かん。又預言女アンナあり、アシルの支派ファヌイルの女なり、処女の時より夫と偕に居りしこと七載、年大に老いたり、齡約八十四の孀にして、殿を離れず、齊と祈祷とを以て昼夜奉事せし者なり。彼も斯の時來り就きて、主を讃榮し、且此の嬰兒の事を凡そイエルサリムに在りて、贖を俟つ者に語れり。主の律法に遵ひ、悉く之を竟へて、ガリレヤの故邑ナザレトに帰れり。子は漸く成長し、精神益強健にして、智慧充ち、神の恩寵は彼に臨めり。

【常に福にして】に代へて「イルモス」、

附唱) 生神童貞女「ハリスティアニン」等の倚恃よ、爾を恃む者を覆ひ、護り、救ひ給へ。
イルモス、我等信者は影及び文なる律法に於て預象を見ん、凡そ始めて生るる男子は神に獻げられたり。故に我等は無原の父より始めて生れし言、夫なき母より始めて生れし子を崇め讃む。



生 神童貞女 ハリスティアニン等の たのみ よ 爾を頼 者を

覆い ま も り すくいた ま - - え

われ等 信者は かげ および 文なる 律法において 預 象を見ん

およそ 始めて生まるる 男子は 神に捧げられ た - り

ゆえに われ等は 無限の ちちより はじめて生まれし ことば

おとなき 母より はじめて 生まれし子を あ が め 讃 む

【領聖詞 115 聖詠】我救の爵を受けて、主の名を?ばん。「アリルイヤ」。三次。



われ 救い の 爵 を 受 け て 主 の
名 を 呼 - - ばん
ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル - - イ ヤ

または

領聖詞 115聖詠 4

Sergey Glagorev



① 単音
我 救いの爵 を 受 け て、 主 の 名 - を 呼 ば ん
① 二部
我 救いの爵 を 受 け て、 主 の 名 - を 呼 ば ん
ア レ ル - ヤ ア レ ル ヤ ア レ ル - イ ヤ